

第一回 企業と社会フォーラム年次大会の開催に当たって

企業と社会フォーラム(JFBS)は、企業と社会の関係にかかわる諸問題について、学界、産業界、政府・行政、市民社会等との幅広い連携のもと、国内外の関係機関とも連携しながら、学際的研究・議論を行う新しい学会として、本年5月に発足しました。今回、会員、関係諸団体のご協力のもと、第一回目の年次大会を開催する運びとなりましたことを、御礼申し上げます。

本大会の統一テーマは「持続可能な発展とマルチ・ステイクホルダー」です。その趣旨につきここで簡単にご説明致します。

持続可能な発展が求められる時代において、グローバル・ガバナンスのあり方が変化しています。そこでは特定の主体が大きなパワーをもつのではなく、経済・環境・社会の諸問題の解決にかかわる全てのステイクホルダー(政府、企業、NGO、労組、消費者団体、学界など)がそれぞれの立場から責任をもって関与する「マルチ・ステイクホルダー・プロセス(MSP)」の構築が求められています。1990年代以降、グローバルにはMSPの枠組みで持続可能な発展にかかわる議論がなされており、企業行動基準や規格の策定にあたってはステイクホルダー間の協働が欠かせなくなっています。一方日本では、MSPの取り組みが進んでいるとは言いがたい状況があります。またMSPの枠組みについての議論も、理論面・実務面からまだ本格的になされているわけではありません。

そこで、まずキーノートスピーカーとして、Waikato 大学教授 Juliet Roper 氏と、BSR Asia の Jeremy Prepscius 氏から基調講演をお願いします。

統一論題のプレナリー・セッション「日本における円卓会議の可能性」では、日本のナショナル/リージョナル・ガバナンスにおけるMSPの課題と可能性について、マルチ・ステイクホルダーで議論します。2009~2010年度の2年間、内閣府において、マルチ・ステイクホルダーが参画して「安全・安心で持続可能な未来に向けた社会的責任に関する円卓会議」が開催されてきました。今後日本でもこのようなスタイルによって将来ビジョンや政策を議論する場はますます必要になってくると思われませんが、これまでの経験を踏まえ、円卓会議というものの可能性について考えます。

ブレイクアウト・セッション A-1 では、MSPで決まってきたISO26000(社会的責任のガイダンス)の日本における理解と課題について、マルチ・ステイクホルダーで考えます。ここでは規格の紹介・解説ではなく、新しいグローバル・ガバナンスの中で決まってきたこの国際規格のもつ意味と、今後の日本の経済社会、企業経営に与える影響について検討します。

ブレイクアウト・セッション A-2「震災と企業シンポジウム」では、大きな災害をもたらした東日本大震災から半年を経て、企業がどのような取り組みを行ってきたか、本業を通して、また緊急支援活動を通して、地域経済・社会に貢献する企業の役割、経営課題について考えます。このテーマは、本大会後の研究会において引き続き議論していく予定です。(このセッションは、「学会連携・震災プロジェクト」と連携しています。<http://gakkai-renkei.jp/>)

ブレイクアウト・セッション B-1 では、社会的な課題に取り組むソーシャルビジネスの事業戦略について、消費者・地域社会などステイクホルダーとの関係性から考えます。

ブレイクアウト・セッション B-2 では、企業が社会的事業を行うにあたって、企業・NPOなどステイクホルダーとの協働関係を形成し取り組んでいる組織戦略について検討します。

本学会では、報告者・パネリストと参加者との双方向のやりとりの時間をできるだけ取るようにしています。それぞれのセッションにおきまして、皆様の積極的な議論を期待しております。

2011年9月16日
企業と社会フォーラム 会長 谷本 寛治